

調査結果の概要

■ 成果

【陸域】

<ブナ稚樹分布>

- 温暖化に伴う積雪量の減少に応じて、ブナの稚樹が分布できる場所は高標高域に限られる。(右図)

<ブナ紅葉>

- 将来的な温暖化に伴い、ブナの紅葉最盛日は今世紀末には1ヶ月ほど遅れると予測された。年による違いは20日程度あり、場所による違いもある。

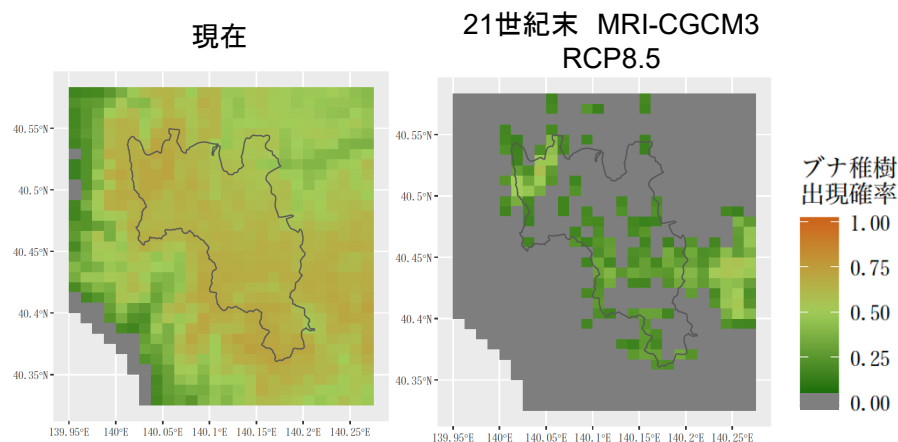


図. ブナ稚樹分布
出典: 国立環境研究所作成

【海域】

<海藻・サンゴ・食害生物の分布の北上>

- 温暖化に伴う水温上昇に応じて、RCP2.6では温帯性海藻の分布は北部に残存するが、RCP8.5では公園外に移動しサンゴも北部に残存する形となる。食害生物の分布は全域に及ぶと予測される(右図)

<サンゴの白化リスク、幼生供給・加入>

- 将来的な温暖化に伴い、サンゴ白化の頻度はRCP2.6で約30%増、RCP8.5で約70%増となる。

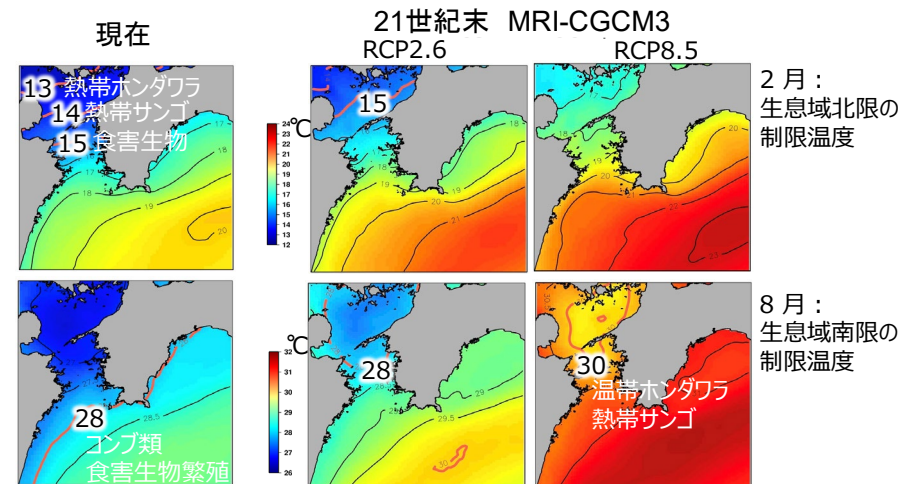


図. 大型藻類とサンゴ群集の制限温度の予測
出典: 国立環境研究所作成

■ 適応オプションのまとめ

【陸域：世界遺産白神山地及び妙高戸隠連山国立公園】

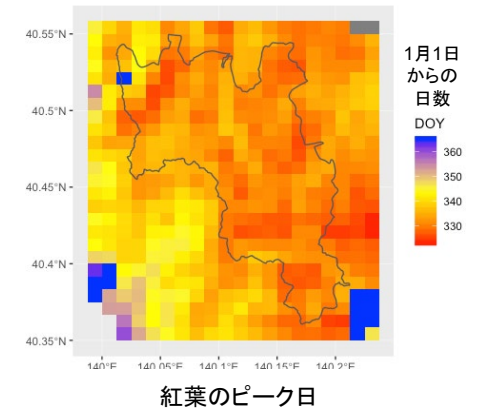
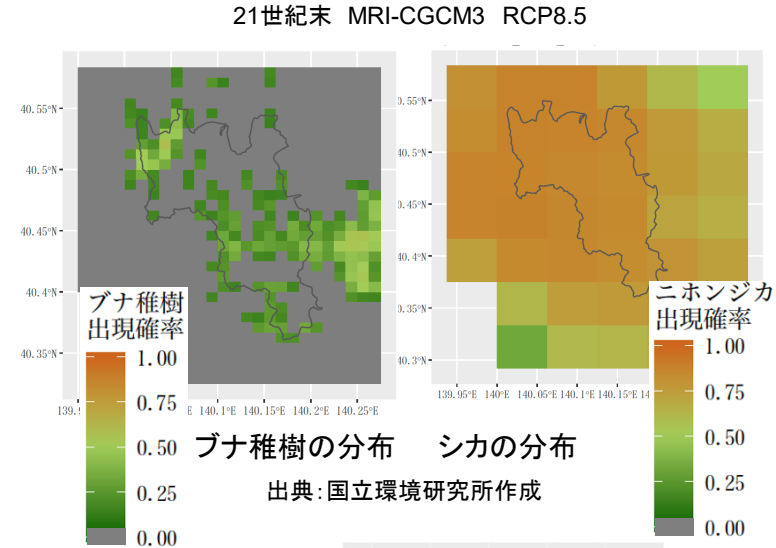
- シカの駆除や防鹿柵、更新施業によるブナ個体群を維持する(右図)。
- ブナが更新可能なサイトを保護することによって、地域個体群の存続を図る(右図)。

- 紅葉を利用した観光などの時期を遅らせる(右下図)。

- ✓ 将来的なブナ紅葉の遅れや年による変動に合わせて、イベントによる集客などを調節できるシステム(紅葉予報など)を構築する。

【海域：足摺宇和海国立公園及び奄美群島国立公園】

- RCP8.5で比較的低リスクとなる海岸において、白化に影響する陸域負荷の軽減、サンゴ食害生物の管理など重点的に保全、幼生供給源海域の保全による幼生加入が確保される。
- 上記の結果をベースに、今後各島の地域特性に対応した適応策を立案する。



MIROC5、RCP8.5、21世紀末
出典：国立環境研究所作成